

「神戸発・優れた技術」見直し

10年ごとに再審査

市産業振興財団 ブランド力を維持

神戸市産業振興財団(神戸市中央区)は、高い技術力のある中小製造業を認定して情報発信する制度「神戸発・優れた技術」を見直し、認定後10年ごとに再審査を義務づけることにした。制度発足から16年がたち、ブランド力を維持する。

また河田鉄工所(神戸市長田区)▽プレテック(同東灘区)▽神戸天然物化学(同西区)の3社が新たに認定された。

同財団の森脇俊道理事

長(神戸大名大学教授)は「各分野で国内トップ級の技術を持つ企業が集まった。制度刷新を機にビジネスマッチングにも力を入れたい」と話している。(高見雄樹)

同制度の認定を得るには技術力だけでなく、製品の高いシェアや国際標準化機構(TSO)の認証取得など厳しい審査基準がある。現在の認定企業は98社。うち1997~2000年度に認定を受けた45社が再審査を受け、更新が認められた。

5カ月ぶりに輸入額が増加

10月の神戸港概況

神戸税関が発表した10月の神戸港貿易概況によると、輸出入総額は前年

同月比5.7%減の6349億円となり、11カ月連続で前年実績を下回った。輸出額は4032億円(前年同月比9.9%減)で11カ月連続マイナス。

アジアや欧州連合(EU)向けの建設・鉱山用機械、荷役機械などの減少が響いた。中国向け輸出は13カ月連続して減少したが、タブレット端末向けの中小型液晶パネルの輸出は増加した。輸入額は2317億円(同2.8%増)で、5カ月ぶりにプラスに転じた。医薬品の原料となる有機化合物や冬物衣類などの輸入が好調だった。地域別では、韓国や台湾、タイからの輸入が伸びた。アジアが5カ月ぶりにプラスとなり、米国とEUからの輸入も2ケタの伸びとなった。(塩津あかね)

140社・団体製品PR

池田泉州、但馬銀が開催

大阪



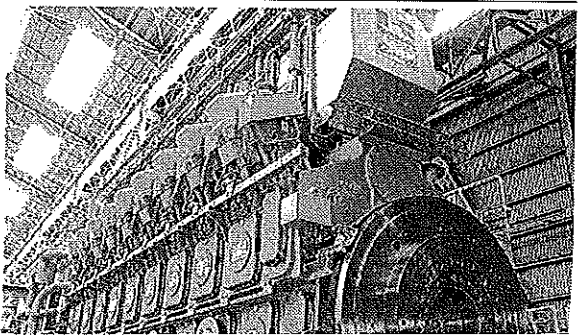
自社の製品や技術をPRする参加者ら―大阪市北区中之島5、大阪国際会議場

兵庫県など関西の企業や大学が集まり事業連携を目指す「ビジネス・エンカレッジ・フェア2012」が5日、大阪市内で始まった。東日本大震災の被災地からの出展を含め、140社・団体が製品や技術をPRした。6日まで。

池田泉州銀行(大阪市)の主催で13回目。昨年から但馬銀行(豊岡市)が共催し、今回は兵庫県内から同行の取引先など27社・団体が参加した。豊岡市の業務用かばん製造の三栄産業は、金融機関向けに現金や重要書類を運ぶかばんを製造。小森正基社長(56)は会場で「一般用にもぜひ使ってほしい」と呼び掛けた。東北からは15社・団体が参加。食品製造のマリプロ(宮城県石巻市)は震災体験を生かした防災食キットを紹介。藤原公一取締役(45)は「震災の教訓とともに広めた」と話した。また、池田泉州銀行が起業家を発掘・支援する「ニュービジネス助成金」の表彰式があり、「地域起こし」大賞に高性能蓄電池の開発を進めているクエラテクノロジ(神戸市中央区)が選ばれた。

(松井元)

が参加。食品製造のマリプロ(宮城県石巻市)は震災体験を生かした防災食キットを紹介。藤原公一取締役(45)は「震災の教訓とともに広めた」と話した。また、池田泉州銀行が起業家を発掘・支援する「ニュービジネス助成金」の表彰式があり、「地域起こし」大賞に高性能蓄電池の開発を進めているクエラテクノロジ(神戸市中央区)が選ばれた。



ガスエンジン知

川重 シンガポ

川崎重工(神戸市中央区)は5日、シンガポールに新設される液化天然ガス

2基をた。ガ

景気の後退局面下で始まった衆院選。兵庫県内の中小企業からは「かつてない厳しい状況」と切実な声がかかる。円高や電力問題など課題は山積し、来年3月には、資金繰りを支えてきた中小企業金融円滑化法の期限が切れる。原発政策の在り方など大きな争点を前に、中小企業政策の論議が埋没する懸念が広がっている。

(末永陽子)

ひ

かすむ中小企業政策

の期限切れ

「生産量の7割を占め 移行や家電工コポイント

念の懸念

える。し
を取り巻
を増して
今後問
のが、金
限切れた
マン、